

はまふうどナビ



SEPTEMBER 2015 Vol.38

黄金色に輝く田園風景

横浜の米 特集



「横浜に水田はある、○か×か？」

この質問に迷わず「×」と答えてしまう方もいらっしゃるのではないのでしょうか。正解は「○」。実は、河川の流域を中心に138ヘクタール^{*1}の水田が広がっています。

*1 農林水産関係市町村別統計による平成26年度産の水稻の作付面積（農林水産省）

横浜市では、良好な田園景観の保全と地域の活性化を図るための「横浜ふるさと村」や、市民と農とのふれあいを図るための「恵みの里」など、農業が身近に感じられる場づくりに取り組んでいます。今回は、田園風景が楽しめる2か所のふるさと村と3か所の恵みの里をご紹介します。

どこか懐かしい田園風景を眺めながら、“横浜の農”を感じてみませんか。

寺家ふるさと村

雑木林の丘に挟まれた谷戸田（やとだ）と呼ばれる細長く伸びた水田が幾筋もあり、昔ながらの田園風景が色濃く残る地域。

田奈恵みの里

田園都市線田奈駅から連なる貴重な水田を中心としている地域。

新治恵みの里

“横浜の原風景”とも言われる美しい谷戸田を有した地域。

都岡地区恵みの里

露地野菜と稲作を中心とした谷戸景観が残る地域。



恵みの里では稲作体験も楽しめます

舞岡ふるさと村

中心に市営地下鉄舞岡駅があり、住宅地に囲まれながらも、多くの山林と緑豊かな田園景観を有した地域。

JA横浜販売課の方に聞いた

横浜のお米の話

JA横浜の「ハマッ子直売所」では、10月頃から新米の販売が始まります。市内のお米は“さとじまん”という品種が主流。粒が大きく、食味が良いのが特徴です。一般のスーパーでは見られない珍しい品種ですが、市内では最も出荷量が多く、神奈川県が指定する奨励品種にもなっています。

ハマッ子直売所（13店舗）のほか、個人の直売所でも販売されており、市内の小中学校の一部では、給食としても利用されています。今後は米粉や煎餅等の加工品の販売を予定。色々な場面で市内産のお米を楽しんでいただきたいです。



横浜産のお米が買えるJA横浜のハマッ子直売所はこちらから検索
https://ja-yokohama.or.jp/oishii/chokubai_list.html

はまふうどナビのバックナンバーはウェブサイトでご覧いただけます

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/nousan/tisantisyu/torikumi/hamafoodnavi.html>



はまふど人

登場

vol.38

さまざまな立場から地産地消に取り組む方をご紹介します

食を通じて地域の魅力を伝えたい

「母親の目線で家族に食べさせたいもの」をコンセプトに、商品のセレクト、開発、情報発信などを行うさくら工房。その取組の中から、地元の農産物を使った「青葉区発横浜おみやげプロジェクト」について、代表の櫻井友子さんに聞きました。

さまざまな業種の人が結集しお土産で伝える地域の魅力

横浜の農産物に注目し始めたきっかけは、さくら工房の事務所を青葉区市が尾に移転した3年前に遡ります。櫻井さんは、田園都市線沿線に住む母親たちに向けた地域密着の事業展開を模索していました。そんな時、NPO法人が運営する起業支援センター“まちなかbizあおば”の設立を知ります。「“ビジネスに関わる人たちに「つながり」の機会を提供することで地域の課題をビジネスで解決する」というセンターのコンセプトにとっても共感し、初代メンバーとして参加しました」。

様々な業種のメンバーと議論を進めるうちに、課題が見えてきました。例えば、青葉区周辺はベッドタウンであり昼間は都心へ多くの人たちが流れていること、畑や水田が多く新鮮な農産物があるのにあまり知られていないことなど。「この地域では少量多品目で作っている農家さんが多く、直売所ではすぐに売り切れてしまいます。昼間都心で働くお母さんたちが帰ってくる頃にはもう手に入らない。新鮮でおいしい地元の野菜を子どもたちに食べさせたいと思うお母さんたちに届かないのです」。さらに、“横浜名物”



さくら工房
代表
まくらいともこ
櫻井友子さん

シフォンケーキとフランのセット
“丘のよこはま”2,300円



とされるお土産は海に近いエリアのものが多く、内陸の青葉区周辺には特徴的なものがないとの意見も出ました。

「地元の新鮮な農産物を使って、“丘の横浜”のお土産を作り、農産物の美味しさや地元の田園の素晴らしさ伝えられたら」。そこで“青葉区発横浜おみやげプロジェクト”が始まりました。「弁護士や中古車店の方、ファイナンシャルプランナー、薬局の方など様々な業種の志のある人たちが集まりました。食品関係は私だけです」。資金集めのためにクラウドファンディングも始めました。クラウドファンディングとは、



7月10日にオープンした直売所“おかんダイニング”。“丘のよこはま”のほか、そぼろやドライフルーツなど、母親目線で選んだ食品が並ぶ

さくら工房直売所 おかんダイニング

場所 青葉区市が尾 1161-1

休業日 日曜、祝日

営業時間 10:00 ~ 18:00

<http://www.sakura-factory.jp/>



田奈農協（当時）の粉碎機とでき上がった米粉



シフォンケーキに使う卵は、緑区の前田養鶏場から

ウェブサイト上でプロジェクトに賛同した人たちから少しずつ支援金を募る方法です。櫻井さんはホームページやブログなどのSNSでプロジェクトについて発信し、説明会を繰り返し開催。「説明会に来てくれた地元の方たちは、クラウドファンディングや青葉区発のお土産というなじみのない言葉に、頭の中が“？”でいっぱいだったと思います。それでも地元愛の強い方たちが“お土産があったらいいよね”と応援してくださり、目標の80万円を集めることができました」。

試行錯誤を重ねて完成 地元産米粉のお菓子

資金集めと同時に、具体的なお土産作りにも着手。青葉区は横浜市の中で水稻の作付け面積が1番多いこと、日本の食文化を伝えるために“子どもたちに米を食べてほしい”という思いがあったことから、地元の米からできた米粉でシフォンケーキを作ることにしました。

さくら工房のシフォンケーキは添加物を一切使わず、卵白と米粉の力だけでふくらませます。また、風味を損なわないように、直火が当たるオーブンを使わない特殊な製法で作るため、普通の米粉では対応できません。様々な米の品種から、オリジナルのシフォンケーキに合うものを探し、粉碎方法や粉の細かさにもこだわりました。「何度も失敗して途方に暮れていたとき、ある農家さんから米粉の研究を行う神奈川県農業技術センターを紹介してもらい、相談に行ったんです。そこで田奈農協（当時）にある粉碎機の情報を教えてもらいました」。この機械のおかげで、独自のシフォンケーキに理想的な米粉が完成。

そのほか、卵や野菜などの素材も、都筑区、港北区、緑区といった青葉区を含む周辺のものを活用しています。試行錯誤の末に完成したシフォンケーキはキメが細かく、フワフワの食感。「お米の香りと甘みを感じられるので、そのまま、おにぎりのように食べてほしいです」と櫻井さん。

このほか、今回のプロジェクトのために新開発したお菓子“フラン”にも地元の米粉、卵を使っています。中身のジャムやソースは、農家の女性たちが手掛けたもの。夏にはラズベリーやクワの実、トマト、秋にはカボチャやサツマイモ、栗などが入る予定。「旬に応じてこまめに素材を変える売り方は、小さな工房だからこそできる。私たちの強みですね」。

様々な人の情熱が詰まったシフォンケーキとフラン。これらがセットになったお土産“丘のよこはま”は、さくら工房の直売所“おかんダイニング”のほか、今後は代理店やウェブサイト、電話でも購入できるようになります。「地産地消や米粉の活用が世界的に注目されていて、時代のニーズの追い風があると感じています。地域を思う異業種の人たちとつながることで、今後どんな展開を繰り広げられるか、楽しみです」。

生産者と消費者をつないで 地元の農業を知ってほしい

「青葉区周辺の農家さんは無農薬や有機農法に挑戦するような意識の高い方が多い。だからこそ農家さんと一般の人たちがもっと上手に交流できたら」。プロジェクトメンバーはこれまで、多くの農園や直売所を直接訪問することで付き合いを広げてきました。「何もかもが新鮮ですね。先日はいい大人がキャーキャー言いながら玉ネギを掘らせていただいて」。櫻井さんは、ぜひ子どもたちにこうした体験をしてほしいと感じています。「地域のつなぎ手になりたい。ほんの1~2kmの距離に生きた田畑が広がっています。多くの人に、自然と交わる体験や旬の野菜のおいしさを知ってほしいですね」。

地域の課題を探しているうちに、櫻井さんは横浜の歴史について理解を深めていきました。「開港によって様々な食文化が流入した“横浜”にしかできないオリジナリティを追求したいです。そうすれば、もっと横浜と農業が盛り上がるのでは。横浜はそれができる土地柄だと思います」。横浜の歴史と農業がコラボする新しい発想に期待がふくらみます。🍎



とれたー！



玉ネギ掘りの成果

11月は地産地消月間！

～イベントのお知らせ～

よこはま食と農の祭典 2015

横浜の農を「知る・体験する・味わう」をテーマにしたイベント。地産地消を応援する料理人の話が聞けるコーナーや農とふれあう体験コーナー、農産物の直売、トラクターの展示等、様々な催しを行います。ぜひ「地産地消の祭典」を楽しんでください。

- 日時** 平成27年11月14日(土) 12:00～17:00
- 会場** クイーンズサークル、クイーンズパーク
(クイーンズスクエア横浜1F)
- アクセス** みなとみらい線「みなとみらい駅」からすぐ
- 問合せ先** 横浜市環境創造局農業振興課 045-671-2639



農と緑のふれあい祭り

環境活動支援センター、児童遊園地、こども植物園を会場に、野菜の収穫体験や農畜産物の販売、自然素材を利用した工作教室など、横浜の緑や農業を身近に感じられる様々な催し物をご用意しています。爽やかな秋の一日を、家族そろって狩場の丘で過ごしてみたいいかがでしょうか。

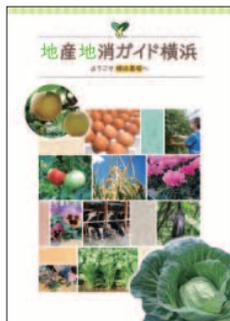
- 日時** 平成27年11月3日(火・祝)
10:00～14:00 (こども植物園は15:00まで)
- 会場** 環境活動支援センター・横浜市児童遊園地・こども植物園
- アクセス** バス 児童遊園地前、または児童遊園地入口下車
- 問合せ先** 横浜市環境創造局環境活動支援センター
045-711-0635



地産地消に関するパンフレットを発行しました！

地産地消ガイド横浜

皆様に“地産地消”をご紹介するパンフレット「地産地消ガイド横浜」を発行しました。横浜の農業を「知る」「味わう」「体験する」「発信する」ための様々な情報をご紹介します。



地産地消イベントガイド2015

地産地消月間である11月は、横浜市内で様々なイベントが開催されます。「地産地消イベントガイド2015」では、横浜の“農”を知ったり・味わったりできる様々な地産地消イベントをご紹介します。



- 「地産地消ガイド横浜」「地産地消イベントガイド2015」はお近くの区役所や図書館等で配布しています。お問合せは下記、環境創造局農業振興課まで